

# 伊方原子力発電所の危うさ

◎民間規制委・いかたは、四電が訪問対話活動（注1）の際、各戸に配布したパンフを土台に、安全対策の欠陥を指摘するパンフを作成しました。ダウンロードしてご活用ください。

四電は「伊方発電所の安全対策」という訪問対話用パンフを各戸へ配布、不在者へは下記の手紙を残していました。

〇〇〇〇 さま

いつもお世話になります。四国電力です。

本日、伊方発電所周辺地域の皆さまのお宅へご挨拶にお伺いいたしましたが、お会いできませんでしたので、失礼ながら資料を投函させていただきました。

同封の資料をご覧ください。

「電話での説明」もしくは、

「ご自宅にお伺いしての説明」

を希望される場合は、

お手数ではございますが、以下のフリーダイヤルまで、ご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、説明を希望されない場合は、ご連絡の必要はありません。

0120-796-459

（6月10日までの毎日9時～17時）

平成28年〇月〇日 〇時〇分

訪問者 〇〇、〇〇

四電は、訪問対話と再稼働準備（注2）を最優先し、安全問題を議論するための民間規制委の規制勧告への回答と聴聞の会合を後回しにしています。そんな中で見つかった1次冷却材ポンプの不具合。本当に安全対策優先なのかと、住民の不安は高まっています。

## （注1）訪問対話活動

四国電力は5/11～6/10の1カ月間、伊方原発から半径20キロ圏内およそ2万8千戸を、社員約500名を動員し、2人1組で「訪問対話活動」（年に1回）を実施。面談できた約1万戸の主な意見のうち、原発の安全性への不安は約1800戸（昨年度1650戸）、地震と津波への不安は約1000戸（昨年度約400戸）で、いずれも増えた。一方、原発は必要との意見は約1700戸（昨年度約2050戸）と減った。

（伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について 2016.7.1 四電HPより）

## （注2）再稼働準備

伊方原発3号機は、昨年7月に規制委の審査に合格。今年6月27日に原子炉への核燃料装填を完了。7月14～15日に重大事故訓練を実施したが、作業員2人が熱中症となり、訓練やり直しに。17日に起きた1次冷却材ポンプのトラブルにより、26日に予定していた再起動は、8月以降にずれ込む見通し。